

市政「経営」の 行き詰まりあきらか



市議 小田桐たかし

失政のツケを市民にまわすな

井崎市政は、人口急増と福祉の増進に対する真摯な姿勢はもつていません。「人口減少時代の到来」を理由に失政のツケを誤魔化そうとしていますが、市民

の世論と運動には敏感です。障がいの有無にかかわらず、子どもからお年寄りまで「住んで良かつた」と実感できる流山をご一緒につくりましょう。

市民生活に寄り添った市政運営を

充分な受け皿がないままに人口が急増している流山市。要望が多様化し、急増しています。そんな中、昨年10月市議会つくばエクスプレス沿線・川耕地整備特別委員会（委員長小田桐たかし議員）は、おおたかの森駅周辺の区画整理事業を施行しているJRF都市再生機構に要望書を提出しました。

受け皿なき開発・住民誘致に未来はない

1999年に始まつたおおた

かの森駅周辺の住宅開発。街の構造が変化し続けています。

前市長の市政運営を批判し就任した井崎市長でしたが、住民誘致型の大規模開発は温存。市政「経営」を掲げ、開発推進の『起爆剤』を次々打ち上げますが、課題が噴き出しています。

■校庭が広かつた小山小学校は、「非効率」と、駅前から離し、墓地の上に移転。低層校舎の導入、児童館などを複合化させました。

しかし、児童の急増に追い付かず、校舎や学童クラブの増築や学区変更が相次ぎ、子どもの生活や人間関係、学校生活等への影響は否定できません。

■セントラルパーク駅前の市有地（約3千坪）に私立幼稚園・小学校（インターナショナルスクール）を誘致。50年間もの長期賃貸契約を結び、賃料は2分

の1に減額しました。

しかし、授業料が高く市内利用者は伸びず、しかも駅前でも商業出店が少なく、『賑わい』をうみだせていません。

■2つの新設小学校、1つの新設中学校の建設計画を縮小。3校分の用地購入を取りやめ、併設校に集約させました。

しかし、児童生徒の急増で、18教室分のプレハブ校舎を増築。さらに新設校用地もなくなっています。

■おおたかの森駅前の市有地（約3千坪）にホテルを誘致し、マンション業者に公共施設（市民窓口センターなど）まで造つてもらう計画を導入しました。

しかし、学校や保育園だけにとどまらず、保健センターや児童館、福祉会館、図書館などの不足には手が付けられておらず、上下水道の経営も先行き不透明感が高まっています。

乱開発より、

より良い街の発展を

2016年10月31日、特別委員会で要望書を提出しました。小田桐たかし特別委員会委員長は右から3番目。

また、H 29年度予算委員会では『摘要要事項（議会全体の合意事項）』として19項目をピックアップ。「マンモス校化による児童生徒への影響を最小限にとどめる方策を検討されたい」「正規教員の増員配置を県に要望するとともに、教員の長時間過密労働の解消へ可能な限りの

取り組みを強められたい」「子どもの貧困実態を調査するともに、就学援助や非婚ひとり親家庭への負担軽減、子ども食堂や無料塾など対策を講じられたい」などソフト面からもより良い街の発展に欠かせない取り組みを共同で求めています。

会派・立場の違い超え、共同の輪を広げて

市議会には、TX沿線の街づくりを調査研究する特別委員会が長年設置されてきました。H 27年6月議会以降、小田桐市議が委員長となり、様々な課題を議論する中で、市議会史上初となる特別委員会による要望書がまとめられ、UR都市再生機構に提出しました。

URの回答では、URが保有する①B 35街区は住居系ではなく、（商業業務系）施設系立地を条件に販売。②C 72街区は住居系も含め用途は限定しない変わりに、H 33年度以降の転入（小中学校入学）となるよう配慮することでした。

